

動画教材 内製化マニュアル

目次

- 1.はじめに
- 2.動画作成のポイント
- 3.パターン①:板書形式
 - ②:画面投影形式
 - ③:手元撮影形式
 - ④:パワポ+講師(音声)
- 4.カメラとマイクのご紹介
- 5.iPadでの撮影
- 6.保存用ドライブ

1.はじめに

この度は、当資料をご覧頂きまして誠にありがとうございます。ABCD Partnersの松野広志です。

私は、2012年から今日まで、初めてeラーニングに挑戦される方と数多くお話をさせていただきました。その中で、一番多くの方を悩ませているのが「動画教材の作成方法」だと知り当資料の作成をおこないました。

動画教材の作成を、外部の映像制作会社に依頼をすると、品質は良くても数十万円～数百万円という費用が掛かります。これでは長くeラーニングを続けることができません。

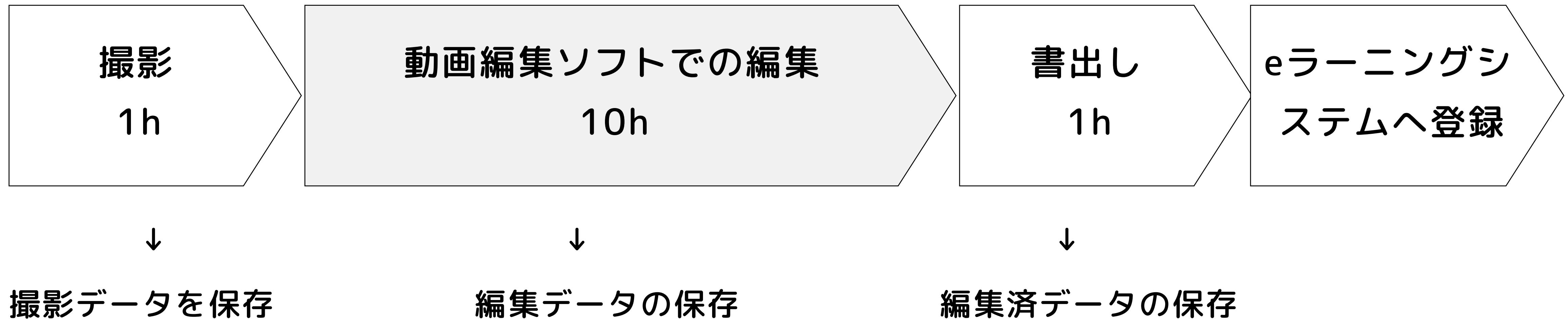
ところが、自分で動画教材を作成しようとすると費用は抑えられますが、編集作業に何十時間も掛かってしまうことがあります。これも長く続けることができません。

是非、当資料を参考に、できるだけ動画教材の内製化に成功し、長くeラーニングを続けて頂けたら幸いです。

2. 動画教材作成のポイント

動画教材と言っても「黒板の前で講師が喋る姿を撮影した動画」や「パワーポイントに音声を付けた動画」など数々の動画の種類が考えられます。どのような動画を作成してもeラーニングの教材にはなりますが、動画教材を内製化するうえでの大切なポイントは「いかに動画の編集作業を少なくできるか」だと思います。その理由は、撮影した時間の何倍も編集時間が掛かるからです。

【例：何も考えずに1時間の動画を撮影した場合】

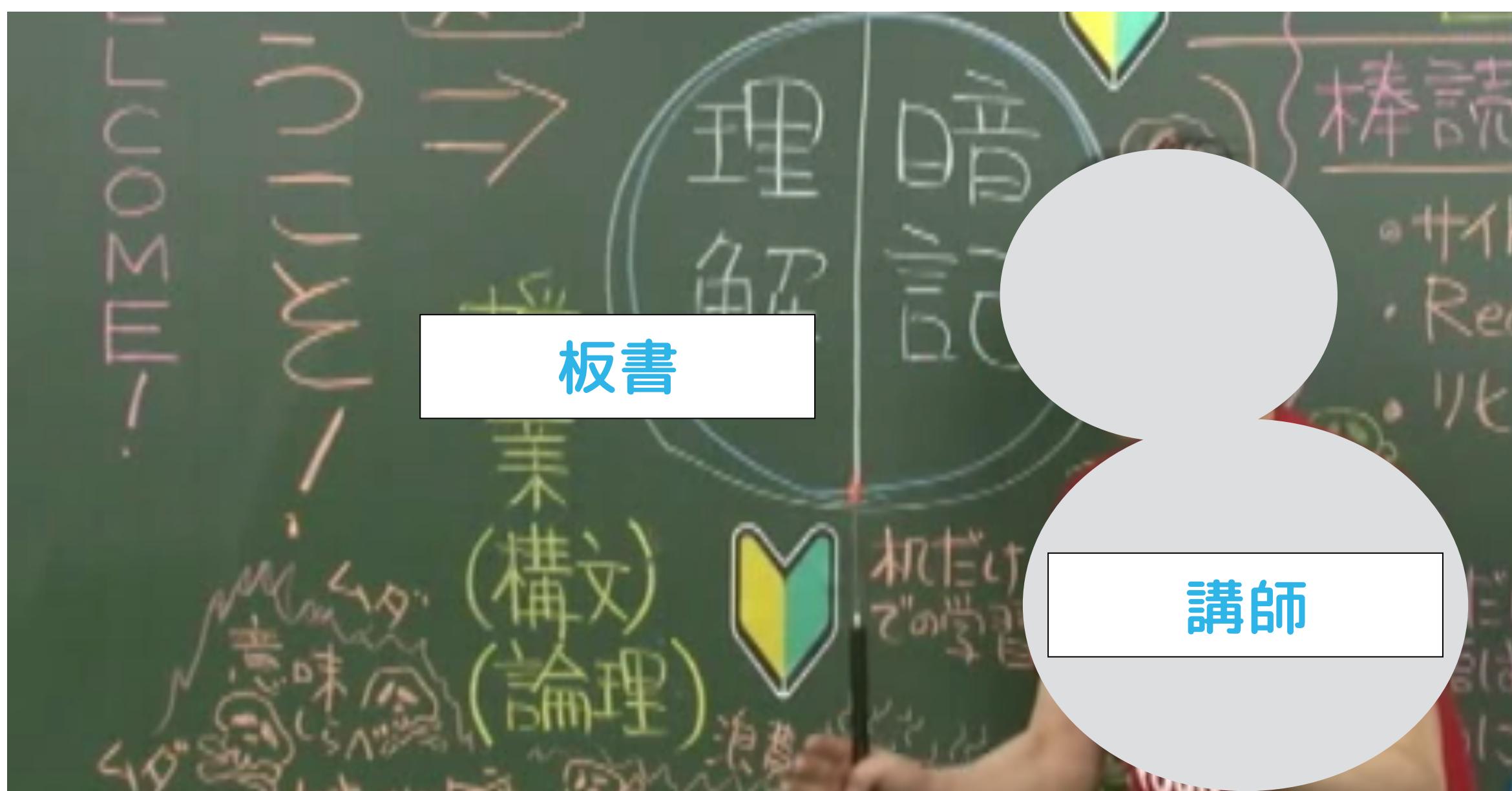


2.動画教材作成のポイント

この後にご紹介する動画教材の作成方法は、できるだけ編集作業を少なく、かつ最小限の機器ができる撮影方法だけをご紹介しています。

3.動画教材 パターン①：板書型

黒板やホワイトボードの前で講義をおこない、その姿をビデオカメラで撮影します。既に日常的にセミナーを開催している方が採用することが多い形式です。



※ 大手大学予備校の映像より

作成方法	黒板またはホワイトボードの前で講義をおこない、その姿をビデオカメラで撮影する。
良い点	撮影自体は、カメラと三脚のみで簡単におこなえる。受講生が目の前にいるため、講師の方が喋りやすい。講師の方が撮影のために時間を作らなくて良い。
ポイント	<ul style="list-style-type: none">① 照明：板書と講師の両方を明るくする② 撮影：講師がカメラから外れないようにする③ 会場：静かな会場を用意する④ 板書：ビデオでも見れる文字の大きさにする
用意する物	<ul style="list-style-type: none">① 黒板又はホワイトボード② 照明③ ビデオカメラ（mp4形式で録画可能なもの）④ 三脚

3.動画教材 パターン②：画面投影型

パワーポイントの画面を大型モニターに投影しながら講義している姿をビデオカメラで撮影します。大型モニターは、プロジェクターとは異なり室内を明るいまま撮影ができ、くっきりとパワーポイントが撮影できます。



※大手企業 社会人向け研修動画のより

作成方法	正面から講師の顔と大型モニターを撮影します。大型モニターの画面はビデオカメラでも綺麗に撮影することができます。
良い点	見栄えが良くビデオの編集作業が非常に少ない。既存のパワーポイント資料を有効活用できる。
ポイント	<p>①PPT：</p> <p>文字の大きさや色に気をつける。</p> <p>スライドでオープニング動画を付けたり、会社ロゴ等をページに入れることで、ビデオにウォーターマークを入れる手間を削減できる。</p> <p>②照明：大型モニターが光を反射しないようにする</p>
用意する物	<ul style="list-style-type: none">① 大型モニター② 照明（なくても問題ない）③ ビデオカメラ（mp4形式で録画可能な物）④ 三脚

3.動画教材 パターン③：手元撮影型

机の上でテキスト等を広げ講義をおこない、上方からビデオ撮影をおこないます。紙資料の説明、計算問題の説明、物品の取扱いの説明等の動画作成に効果を発揮するため、資格学校・学習塾・人事部による社内規定の説明など数多くのシーンで見かける形式です。



作成方法	三脚にブームを付けカメラを下に向けて上方からビデオカメラ・一眼レフカメラ・スマートフォン等で手元の撮影をおこなう。
良い点	紙の資料を活用できる。 複数の資料を使った動画コンテンツも簡単に作成できる。
ポイント	<ul style="list-style-type: none">① カメラ：机の上に置かない (手の振動やペンの音が大きく収録されるため)② 照明：カメラの影が写り込まないようにする
用意する物	<ul style="list-style-type: none">① 照明（手元が暗くならなければよい）② ビデオカメラ（mp4形式で録画可能なもの）③ 俯瞰三脚（サンコー） https://www.thanko.jp/shopdetail/000000003243

3.動画教材 パターン④：パワーポイント+音声型

PowerPointを表示しながら画面録画をおこないます。スタジオが不要で安価に動画を撮影できます。ソフトウェアの操作画面を録画しながら解説音声を入れるのも良いでしょう。



作成方法	<ul style="list-style-type: none">①PowerPointを「スライドショー>スライドショーの設定」で"出席者として表示する"に設定。②PowerPointを画面を、全画面ボタンを押さずに一杯まで広げる。③Quicktimeで画面録画を開始する。④音声の解説を吹き込む
良い点	<ul style="list-style-type: none">①既存のパワーポイントを活用できる②編集にほとんど時間がからない。
ポイント	<ul style="list-style-type: none">①画質の良いWebカメラを使うと良い。②MacのKeynoteではできない。
用意する物	<ul style="list-style-type: none">① PowerPoint② Quicktime③ WEBカメラ

4. カメラとマイクのご紹介

ビデオカメラの選定ポイントは「mp4形式で録画がおこなえる」ことです。その理由は、撮影後の映像がパソコンやスマートフォンで視聴できるため、チーム内で共有しやすいためです。2019年1月現在、各社の一番安価なモデルでもmp4形式でビデオ撮影がおこなえるようです。なお、一眼レフカメラで撮影している方も多数いらっしゃいますが、おすすめはCanonの一眼レフカメラのようです。理由はピント調整が早いためだそうです。また、広めの会場での撮影をおこなう場合は、講師の声を綺麗に収録するために、ピンマイクの利用をオススメいたします。



EOS Kiss M



HDR-CX680

Audio-Technica
ATW-1701/L



5.iPadでの撮影

①撮影後の動画確認が簡単、②動画の編集も可能、③iPadからeラーニングシステムに直接動画をアップロードできる といった利点があるため、iPadでの動画撮影もおすすめです。その場合には、三脚にしっかりと固定するための専用の撮影ツールを購入してください。

おすすめは iographer社製のiPad撮影Caseです。

<https://www.iographer.com/>



6.保存用ドライブ

多数の動画ファイルを保有するようになると、大容量のドライブが必要になります。

家電量販店で販売しているパソコンに外付けするタイプのハードディスクドライブはデータ消失の危険性とメンバー間での動画ファイルの共有ができないことからオススメはできません。

クラウドサーバーに動画ファイルを保存して頂きたいのですが、おすすめはGoogleドライブです。理由は、Googleドライブ上で動画が再生できることと、メンバー間での共有がしやすいためです。

Boxも人気のドライブですが、ファイルをダウンロードしないと動画が再生できません。

Dropboxは動画再生をサポートしていますが、Googleドライブのように素早く再生したりファイルを検索したりはできないと思います。



